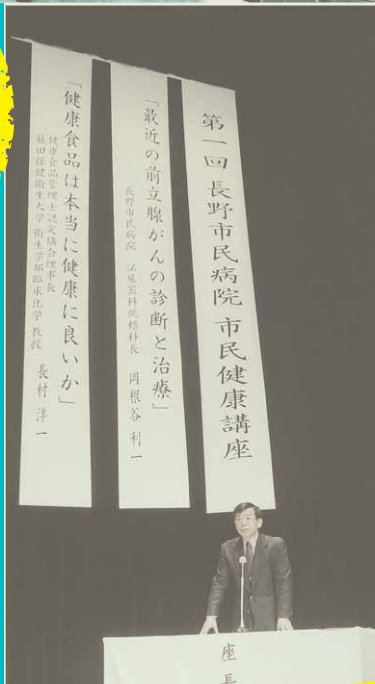


開院 20周年 特別号

あした
元気に
存あれ



20th Anniversary



長野市民病院広報誌
2015年6月1日発行



開院 20周年

20th Anniversary

長野市民病院は2015年（平成27年）6月1日、1995年（平成7年）に開院してからちょうど満20周年を迎えました。これまでの20年、現在（いま）、そして、未来へ。

長野市民病院を支えてくださる地域の皆さまへの感謝を胸に、「地域になくてはならない高度急性期・急性期医療を提供する病院」として堅い信頼を得られるよう、私たちは未来を見据えて日々研鑽してまいります。



1976年

1976年（昭和51年）
11月 市制80周年記念事業の選定において、市民総合病院の建設が第1位となる

1991年（平成3年）

3月 「長野市民病院」開設許可
4月 「財団法人長野市保健医療公社」設立
4月 塚田佐長野市長が理事長就任
8月 公衆衛生だより「ふれ愛」創刊

1992年（平成4年）

12月 長野市民病院建設起工式

1995年（平成7年）

1月 阪神・淡路大震災
3月 地下鉄サリン事件
4月 古田精市病院院長就任
6月 長野市民病院開院
10月 人間ドック開始

病床数150床

6診療科

1996年（平成8年）

1月 病床数206床 7診療科
4月 「Yahoo! JAPAN」がサービスを開始
5月 病原性大腸菌「O157」による食中毒が全国的に発生 病床数254床

8診療科

6月 10診療科
11月 訪問看護ステーション開設

1997年（平成9年）

4月 消費税5%スタート 病床数300床
10月 長野新幹線開通
10月 院内託児所「ベビーハウスたんぽぽ」開設

16診療科

1998年（平成10年）

2月 長野オリンピック開催
日本勢計10個のメダルを獲得
5月 19診療科
10月 横浜ベイスターズ38年ぶり日本一

1999年（平成11年）

9月 東海村JCO臨界事故
12月 コンピューター2000年問題





長野市長
公益財団法人 長野市保健医療公社理事長

加藤 久雄

長野市制80周年記念事業の選定において市民要望により建設が決定した長野市民病院は、この度満20周年を迎えることができました。

20年を振り返りますと、開設の趣旨に則り、地域の中核病院としての役割を果たすため、長野市北部地域を中心とする救急医療の拠点として、24時間365日患者を受け入れる体制を整えるとともに、地域がん診療連携拠点病院として高度専門医療を提供し、地域住民のニーズに応えてまいりました。また、地域医療支援病院として地域完結型医療の実践に努め、かかりつけ医をはじめとする地域医療機関との機能分担と連携を推進してまいりました。

公的医療機関は市民の安全を守り地域を支える重要な役割を担っており、長野市民病院では「地方独立行政法人」という最適な経営形態を適用しながら、良質な医療の提供と健全経営の両立を図り、もって「健康長寿のまち“ながの”」の実現に寄与してまいります。

今後とも長野市民病院をご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

長野市民病院は、本年をもって20周年を迎えることができました。病院運営に関わる全ての関係各位の皆さまに心より感謝いたします。

20年の年月が経過した昨今、医療を取り巻く社会環境は開院当時と比べ激変しております。少子高齢化の進展に伴い、持続可能な社会保障制度の構築が模索され、また一部では地域社会の存続が危機的状況におかれている状況も見受けられるようになりました。そのような変化の時代にあっても、私たち長野市民病院は地域の中核病院としての役割を果たすべく日々邁進してまいりました。

今後とも、これまでと変わらず「医療を通して長野市民・地域社会に貢献する」ことを使命とし、がんを主体とした高度専門医療及び24時間365日の救急医療の提供、並びに地域の保健、医療、福祉関係機関との緊密な連携など、より一層の体制の充実、サービスの向上を図ることで引き続き皆さまが安心して暮らせる社会の実現に寄与してまいります所存であります。

これからも皆さまの変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

病院長

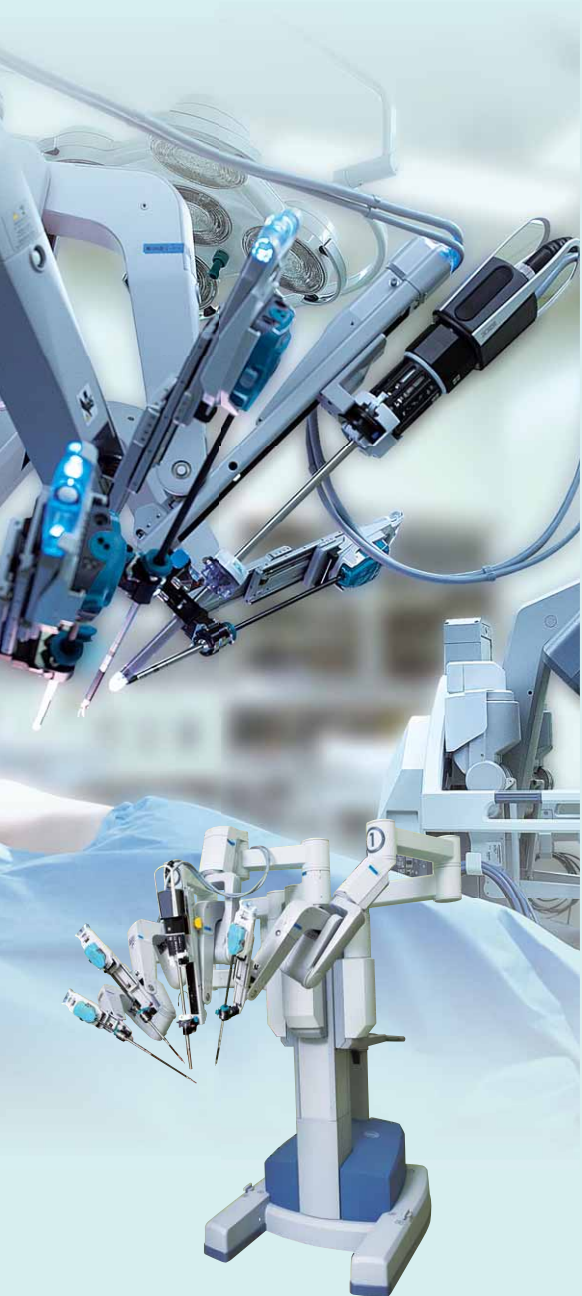
竹前 紀樹



2005年

- 2000年（平成12年）
 - 3月 外来・手術部門等増改築工事竣工
 - 4月 介護保険スタート
 - 7月 沖縄でサミット開催
 - 8月 三宅島が噴火 避難勧告により全島民約2、300名が離島
 - 10月 20診療科
- 2001年（平成13年）
 - 1月 21世紀に突入
 - 2月 田中康夫長野県知事（当時）が脱ダム宣言
 - 9月 アメリカ同時多発テロ
 - 12月 鷲澤正一長野市長が理事長就任
- 2002年（平成14年）
 - 4月 長田敦夫病院長就任
 - 6月 ワールドカップ日韓大会開催
 - 9月 広報誌「あしたの元気になあれ」創刊
 - 10月 北朝鮮による日本人拉致被害者5名とその家族が帰国
- 2003年（平成15年）
 - 1月 21診療科
 - 3月 CT・MR棟等増改築工事竣工
 - 9月 阪神タイガース18年ぶりセリーグ優勝
 - 10月 病院機能評価 Ver.4.0認定
 - 10月 臨床研修病院の指定を受ける
 - 12月 アジア圏で鳥インフルエンザが猛威をふるう
- 2004年（平成16年）
 - 4月 新医師臨床研修制度スタート
 - 8月 アテネオリンピック開催 日本勢最多16個の金メダルを獲得
 - 9月 前立腺がん永久挿入密封小線源療法開始
 - 10月 新潟県中越地震
 - 11月 新1万円、5千円、千円札発行
- 2005年（平成17年）
 - 1月 第1回市民健康講座開催
 - 4月 JR福知山線脱線事故
 - 6月 開院10周年
 - 11月 耐震偽装問題発覚





2006年

2006年(平成18年)

- 3月 第1回WBCで王ジャパンが世界一に
- 4月 財団法人長野市保健医療公社が長野市民病院の指定管理者となる
- 7月 DPC/PDPS(診断群分類包括評価を用いた入院医療費の定額支払い)制度導入
- 8月 セカンドオピニオン外来開始
- 9月 41年ぶり皇室に男児誕生(悠仁親王)
- 10月 7・1看護体制の取得

2007年(平成19年)

- 1月 地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける
- 4月 竹前紀樹病院院長就任
- 4月 敷地内全面禁煙化実施
- 6月 第1回病院祭(現・ふれ愛デー)開催
- 9月 3テスラMRI装置稼働開始
- 10月 郵政民営化スタート
- 11月 緩和ケア・がん相談支援センター設置

2008年(平成20年)

- 1月 ヘリポート供用開始
- 2月 100床増床(南病棟)等増改築工事竣工
病床数400床
- 2月 がんすまいるサロン開設
- 4月 救急センター、長野市民病院・医師会急病センター開設

2009年(平成21年)

- 4月 後期高齢者医療制度スタート
- 7月 がん診療病棟の開設
- 9月 リーマン・ブラザーズが破たん(リーマン・ショック)

2010年(平成22年)

- 1月 オバマ氏がアメリカ合衆国大統領に就任
- 1月 病院機能評価 Ver.5.0 更新認定
- 7月 28診療科
- 9月 衆議院選で民主党が勝利し新政権発足(政権交代)
- 9月 長野市民病院中央棟・南病棟が長野市景観賞を受賞
- 4月 地域がん診療連携拠点病院の指定継続となる
- 4月 宮崎県で口蹄疫問題発生
- 8月 記録的猛暑により各地で熱中症者相次ぐ
(この年の漢字「暑」)

- 9月 地域医療支援病院の承認を受ける
- 10月 29診療科

がん診療と 救急医療を主体とした 高度急性期・急性期医療 を提供する病院として



開院当時から大きな役割として掲げてきたがん診療は、設備・専門スタッフの充実がよりいっそう図られ、平成19年には「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。

また、平成20年に開設した「長野市民病院 救急センター」は、24時間365日救急車搬送をはじめとする救急患者さまの診療を受け入れており、「長野市民病院・医師会 急病センター」では長野市急病センターとして、夜間の初期救急診療を行っております。

2015年

- 2011年(平成23年)
 - 1月 卒後臨床研修評価認定
 - 3月 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故
 - 3月 東日本大震災医療救護派遣・看護派遣等の協力
 - 8月 なでしこJAPANに国民栄誉賞
 - 9月 2次救急医療機関の指定を受ける
 - 10月 SCU(脳卒中専門の集中治療室) 開設
 - 10月 広報誌「あしたの元気になあれ」が全国規模の広報コンクール「BH賞」の最優秀賞を受賞
- 2012年(平成24年)
 - 4月 DPC II群病院となる(2014年3月まで)
 - 4月 QI(クオリティ・インディケーター)プロジェクトに参加
 - 4月 患者サポートセンター設置
 - 5月 東京スカイツリー開業
 - 7月 30診療科
 - 10月 iPS細胞で山中伸弥氏がノーベル生理学・医学賞を受賞
 - 10月 長野市で初めて開催されたリレー・フォー・ライフ 信州長野に参加
- 2013年(平成25年)
 - 2月 RALS(ラルス)棟・手術室増改築工事竣工
 - 手術室が7→8室に
 - 4月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」導入
 - 4月 長野市保健医療公社が公益財団法人へ移行
 - 5月 長嶋茂雄氏、松井秀喜氏に国民栄誉賞
 - 6月 富士山が世界遺産に登録
 - 10月 加藤久雄長野市長が理事長就任
 - 12月 病院機能評価新基準V.M.I.O更新認定
- 2014年(平成26年)
 - 4月 消費税8%スタート
 - 4月 人間ドック健診施設機能評価(5年間)の認定を受ける
 - 9月 御嶽山噴火
 - 9月 救急医療で長野県知事表彰を受ける
- 2015年(平成27年)
 - 1月 卒後臨床研修評価6年認定を受ける
 - 2月 手術室が8→9室に
 - 4月 地域がん診療連携拠点病院の指定継続となる
 - 6月 開院20周年

の20年とこれからの未来

開院当時の慌ただしい状況の中で、
多くの新人看護師を指導した先輩方のおかげで、
今の充実した教育体制・研修プログラムが
生まれたんだと思います。

私は、長野市民病院開院時に、新人看護師として就職しました。社会人になったばかりで、右も左もわからず、病院中も開院したばかりで、誰に何を聞いていいかわからないぐらい忙しい状況でした。また当時は、看護師の半数近くが1年目と2年目の新人で占められていたので、看護師の平均年齢がなんと20代前半だったそうです。今、自分が教育・研修担当者として新人を教育する立場になって、「教えるということはこんなに大変なことなのか!」と日々実感しています。20年前の開院時のバタバタした、しかも何のマニュアルなどもない状況の中で、多くの新人の教育をしなければならなかった当時の先輩方のことを考えると、想像を絶する苦勞をされてこれたんだなあと、本当に頭の下がる思いがします。でもそうした先輩方の積み重ねがあったからこそ、現在の長野市民病院の看護部の教育体制や研修プログラムがこれだけ手厚く充実した内容のものになっていったのかな、と感じました。

医療現場のスタッフが、
「当たり前に見える、当たり前に行える」
環境を整えていくことで、
より良い医療の提供につながっていくはずと信じています。

私は違う業界から転職してきたので、まったく知識がないですから、まずは医療用語を覚えることが最初の課題でしたね。病院の事務部門というと、直接医療現場で仕事をする事が少ないので、なかなか患者さまやそのご家族と接する機会はないのですが、私たちの仕事は、インフラや設備を常に安定した状態で提供することで、患者さまはもとより、現場で働く医療スタッフの皆さんが、何の不便もなく『当たり前に見える、当たり前に行える』環境を常に整えていくということだと考えています。それが、間接的ではあっても、患者さまへの良質な医療の提供につながっていくんだと信じています。最近では周辺の医療施設もどんどん新しくなっていますし、今までの20年、市民病院は新しい病院として認識されてきましたが、これからはその認識も変わっていきます。医療の進歩に乗り遅れないよう、迅速かつ丁寧に施設に手を加えていくことで、長野市民病院をこの先も長く良い状態で維持していくことが、私たちのこれからの使命だと思います。

長野市民病院 看護部
主任（教育・研修担当）

下条 円華

しもじょう・まりか

1995年
(平成7年)
入職

長野市民病院 事務部
施設管理課 課長補佐

中澤 通紀

なかざわ・みちのり

2001年
(平成13年)
入職



長野市民病院 これまで

入職して20年が経ちましたが、
日進月歩していく医療についていけるよう、
日々知識や技術を高めていくことが
必要だと改めて感じました。

まず一番最初に病院に足を踏み入れた時に感じたのは『ホテルのロビーみたいだな』ということです。それまでの病院のイメージとはまるでちがって、衝撃的なくらいきれいでした。また、開院当時のまだ何の機械も置いていない状況の臨床検査室を見て、『ここでテニスができるかも!』と思うくらい広く感じたことをよく覚えています。しかし、いざ機械を入れてみるとあっという間に埋まってしまって…(笑)。それから20年経って今では人がすれちがうのもやっとくらい狭くなっていますが、それだけ検査機器の充実が図られたということでしょう。今日ほかの3名の皆さんのお話を聞いて、私たち臨床検査技師も年々進歩していく医療についていけるよう、また、病院が進んでいく道についていけるよう、日々知識や技術を高めていかなければと、改めて身が引き締まる思いがしました。そして、今後を前向きに考えていくための励みになりました。

人を育てていく、
常に未来を見据えた医療を考えていく。
今の現状に満足せず、
より上の医療を目指していく姿勢が大切です。

私は2008年に別の病院から長野市民病院へ異動してきましたが、2000年頃からパートで市民病院には来ていました。その頃から長野市民病院は『手術数が多い病院』と県内でも有名で、当時若手医師だった私たちにとっては腕を磨くために『行きたい病院』というイメージでしたし、実際『人を育てる』という意識の高い病院だと感じます。その頃のことで思い出に残っているのは、今ではもういらっしやらないのですが、当時の泌尿器科部長の先生が、『十数年後には、手術をロボットでやる時代がくる』と言っていたんです。それが、私が赴任してきてから導入が実現していますからね。当時から未来を見据えた診療をされていたんだな、と思いましたね。ですから、そうした現状に満足せず、常に切磋琢磨してより良い医療を目指していく姿勢は、もっともこの病院に根付いてほしいと思います。

長野市民病院 診療技術部
臨床検査科 主任

上垣外 明子
かみがいと・あきこ

1995年
(平成7年)
入職

長野市民病院 診療部
泌尿器科 科長

飯島 和芳
いじま・かずよし

2008年
(平成20年)
入職



長野市民病院20周年記念

プレイベント開催

20周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として、昨年末より随時ポスターの掲示やプレ・イベントの開催によって盛り上げました。



1月



2月



3月



4月



5月

イベント



11月20日
弦楽演奏による
患者バイキング
コンサート



12月1日
サンクス・
クリスマスツリー
点灯式コンサート

長野市民病院開院
20周年記念特別講演会
世界の見方
～世界はこんなにも多様だ～
ジャーナリスト・東京工業大学教授
池上 彰氏

7月4日(土)
14:00～15:30
ホクト文化ホール
大ホール

20周年プレ・イベント企画

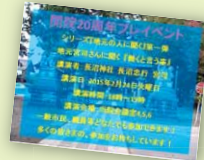
シリーズ「地元の人に聞く」講演会

全5回・長野市民病院 会議室4・5・6で開催

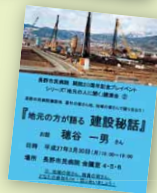
長野市民病院を支えてくださった地域の皆さまの中から代表して6名の方に、これまでの長野市民病院の歴史を振り返ったり、その道の極意を学ぶなど、内容盛りだくさんの楽しいお話をご講演いただきました。



第1弾 平成27年2月24日(火)
地元宮司さんに聞く
働くと言う事
お話:長沼神社 宮司
長沼 忠行さん



第2弾 平成27年3月30日(月)
長野市民病院建設地
富竹の皆さん他、
地域の皆さんで語り合おう!
地元の方が語る 建設秘話
お話:穂谷 一男さん



第3弾 平成27年4月22日(水)
地元福祉施設所長に聞く
障がい者スポーツについて
お話:長野県障がい福祉センター
サンアップル 所長
関口 一道さん



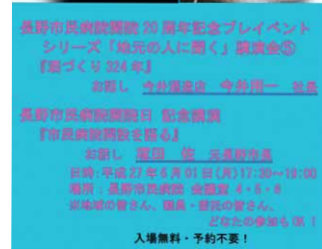
第4弾 平成27年5月12日(火)
地元居酒屋さんに聞く
魚・肴について
お話:朝陽商店街
居酒屋魚菜や店主
徳嵩 今朝幸さん



第5弾
平成27年6月1日(月)
第1部 地元酒造に聞く
酒づくり324年
(創業1691年(元禄4年))
お話:今井酒造店 社長
今井 用一さん

開院日 記念講演

第2部 元長野市長
市民病院
開設を語る
お話:元長野市長
塚田 佐さん



お問い合わせ

公益財団法人
長野市保健医療公社

地域がん診療連携拠点病院 / 地域医療支援病院 / 病院機能評価認定病院 / 認定臨床研修病院 / 二次救急病院 / 人間ドック健診施設機能評価認定病院

長野市民病院 〒381-8551 長野市大字富竹1333番地1
TEL.026-295-1199 FAX.026-295-1148

長野市民病院・医師会 急病センター TEL.026-295-1291 (19:00～翌6:00)

長野市民病院

検索

■発行人: 竹前紀樹

■編集: 長野市民病院広報委員会

バックナンバーは当院ホームページでもご覧いただけます。

http://www.hospital.nagano.nagano.jp/